



# 2021年12月期 第2四半期 決算説明資料

---

2021年 8月 6日  
**富士ソフト** 株式会社



# 目次

---

P2. 2021年12月期第2四半期 連結業績

P12. 上期業況



# 1.連結業績ハイライト① (2Q累計1-6月実績)

## 売上高はプロダクト・サービスおよびシステム構築分野の好調により増収

◇売上高はライセンス販売およびハードウェア製品販売を中心にプロダクト・サービスが好調に推移し、業務系分野ではシステムインフラ構築および金融業向けが好調に推移したことにより、前同比108.1%の132,508百万円となりました。

## 営業利益は増収により増益

◇営業利益は、増収により前同比103.4%の8,731百万円となりました。

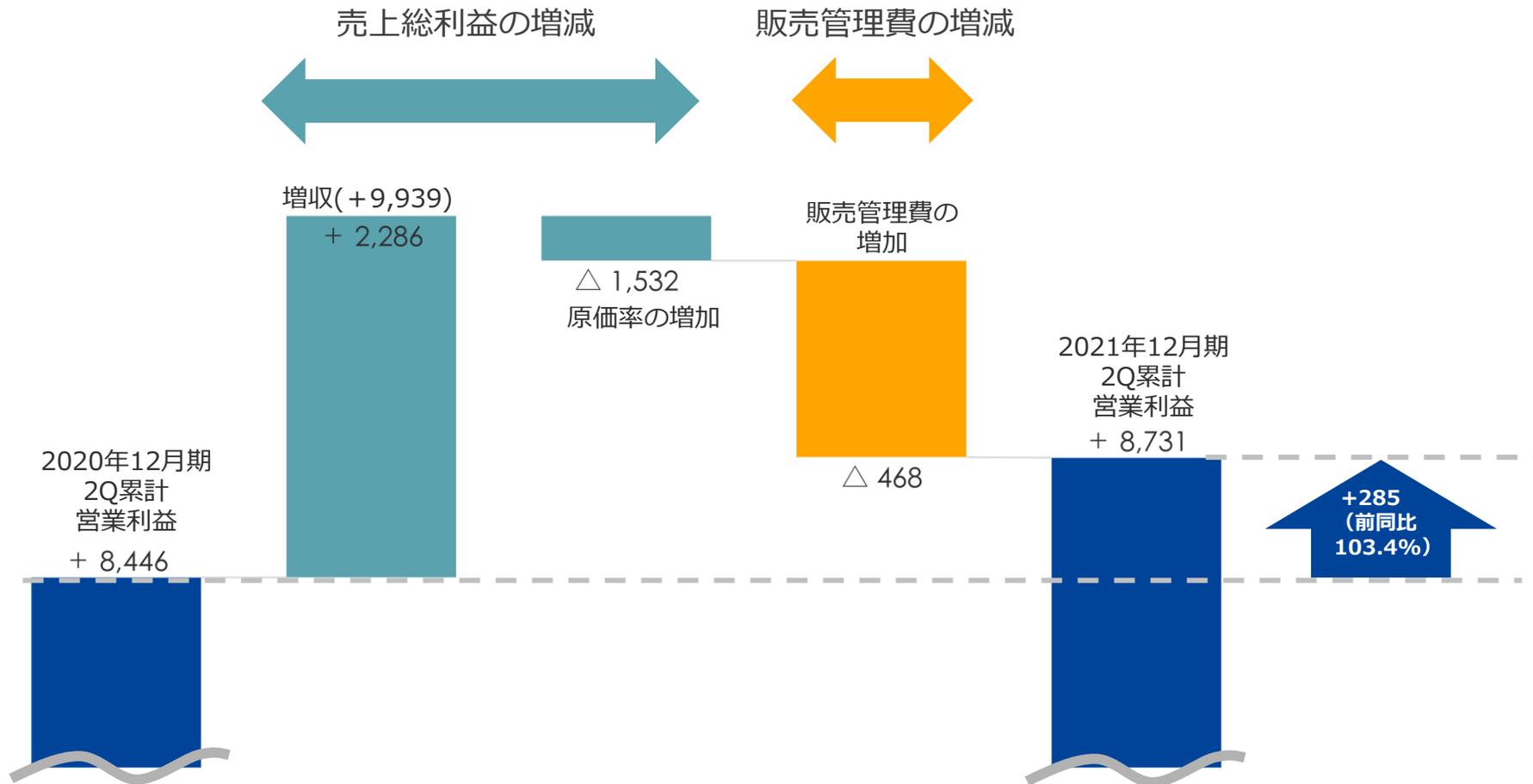
◇経常利益は、増収および為替差益の増加等により前同比109.0%の9,462百万円となりました。

◇親会社株主に帰属する四半期純利益は、投資有価証券売却による特別利益の増加等により前同比120.3%の4,653百万円となりました。

(単位：百万円)

	2020年12月期 2Q累計実績	2021年12月期 2Q累計実績	前同差	前同比	2021年12月期 2Q累計計画	計画比
売上高	122,568	132,508	+9,939	108.1%	123,300	107.5%
営業利益	8,446	8,731	+285	103.4%	8,500	102.7%
営業利益率	6.9%	6.6%			6.9%	
経常利益	8,677	9,462	+785	109.0%	8,700	108.8%
経常利益率	7.1%	7.1%			7.1%	
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,868	4,653	+785	120.3%	4,100	113.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益率	3.2%	3.5%			3.3%	

# 連結営業利益の状況（2Q累計）





# 1.連結業績ハイライト②（2Q区間4-6月実績）

売上高は前同比105.9%と増収

売上原価率は78.0%に減少

◇売上原価率は、前期にGIGAスクール向けの大型ハードウェア販売案件があったことにより当期は78.0%となりました。

販売費及び一般管理費は前年同期より310百万円増加

◇新型コロナウイルス感染症の影響による通勤や出張など移動に係る費用は減少しましたが、引合拡大に伴う受注体制強化のための先行投資による費用の増加等により、前年同期より310百万円増加となりました。

◇営業利益は前同比103.7%の4,133百万円となりました。

（単位：百万円）

	2021年12月期 1Q実績	前同差	前同比	2021年12月期 2Q区間実績	前同差	前同比
売上高	65,928	+6,221	110.4%	66,580	+3,718	105.9%
売上原価	51,665	+5,923	113.0%	51,900	+3,262	106.7%
売上原価率	78.4%			78.0%		
売上総利益	14,262	+297	102.1%	14,679	+456	103.2%
販売費及び一般管理費	9,664	+157	101.7%	10,546	+310	103.0%
営業利益	4,598	+139	103.1%	4,133	+146	103.7%
営業利益率	7.0%			6.2%		



## 2.主なグループ会社売上高・営業利益

(単位:百万円)

	2021年 12月期	売上高	営業利益	
富士ソフト	2Q累計実績	91,476	4,379	売上高は、業務系ではシステムインフラ構築や金融業向け開発、プロダクト・サービスではライセンス販売やハードウェア製品販売が好調に推移し、増収となりました。営業利益は、他社ハードウェア製品販売の増加および一過性の不採算案件の発生や、引合拡大に伴う受注体制強化のための先行人員を増加したことにより、減益となりました。
	前同差	+8,863	△ 64	
	前同比	110.7%	98.5%	
サイバネットシステム	2Q累計実績	12,507	2,238	売上高は、国内CAEソリューションサービス事業、台湾、中国、韓国、米国等の海外子会社の増収により、増収となりました。営業利益は増収及び経費の減少等により増益となりました
	前同差	+635	+207	
	前同比	105.4%	110.2%	
ヴィンクス	2Q累計実績	14,549	1,268	売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響により海外売上の減少はあったものの、国内小売業におけるDXのニーズの高まりと、既存顧客への更なる深耕が奏功したことなどにより増収となりました。営業利益は、生産性の向上などにより増益となりました。
	前同差	+467	+145	
	前同比	103.3%	113.0%	
サイバーコム	2Q累計実績	7,423	537	売上高は、ソフトウェア開発事業において通信系及び業務系開発案件が好調に推移したことに加え、サービス事業において自社プロダクト案件が好調に推移し増収となりました。また、営業利益については増収及び経費の減少等により増益となりました。
	前同差	+559	+117	
	前同比	108.2%	128.1%	
富士ソフト サービスビューロ	2Q累計実績	4,086	176	売上高は、地方自治体向けのBPOサービスやコールセンターサービスが伸びたものの、民間向けでの新型コロナウイルス感染症の影響による営業活動の停滞や、官公庁向けコールセンターサービスの一部終了などにより、減収となりました。営業利益は、減収および異業種からの市場参入を背景とする価格競争の影響により、減益となりました。
	前同差	△ 551	△ 156	
	前同比	88.1%	53.0%	

※「2021年12月期2Q累計実績」欄には、各社2021年1～6月の実績を記載しています。

### 3.連結セグメント別売上高・営業利益

(単位：百万円)

	2021年12月期売上高		前同差	前同比	2021年12月期営業利益		前同差	前同比
	2Q累計実績	構成比			2Q累計実績	営業利益率		
全社計	132,508	100.0%	+9,939	108.1%	8,731	6.6%	+285	103.4%
SI事業	126,612	95.6%	+10,675	109.2%	8,286	6.5%	+489	106.3%
システム構築	70,777	53.4%	+3,643	105.4%	4,362	6.2%	+310	107.7%
組込系／制御系ソフトウェア	33,165	25.0%	+88	100.3%	2,230	6.7%	△ 156	93.4%
業務系ソフトウェア	37,611	28.4%	+3,554	110.4%	2,131	5.7%	+467	128.1%
プロダクト・サービス	55,835	42.1%	+7,032	114.4%	3,923	7.0%	+179	104.8%
プロダクト・サービス	49,026	37.0%	+7,343	117.6%	3,421	7.0%	+167	105.1%
アウトソーシング	6,808	5.1%	△ 310	95.6%	501	7.4%	+12	102.5%
ファシリティ事業	1,252	0.9%	△ 75	94.3%	406	32.5%	△ 52	88.6%
その他事業	4,644	3.5%	△ 660	87.6%	38	0.8%	△ 151	20.3%

#### セグメント別売上高のポイント

##### ●組込系／制御系ソフトウェア

売上高は、社会インフラ系は増加したものの、自動車関連およびモバイル系が回復途上にあり、前同比100.3%となりました。

営業利益は、受注体制強化のための先行人員が増加したことや一過性の不採算案件により、前同比93.4%となりました。

##### ●業務系ソフトウェア

売上高は、システムインフラ構築および官公庁向け案件や金融業向けが好調に推移し、前同比110.4%となりました。営業利益は、一過性の不採算案件があったものの、増収により前同比128.1%と増益になりました。

##### ●プロダクト・サービス

売上高は、他社ライセンスおよびハードウェア製品販売が好調に推移し、前同比117.6%と増収となりました。営業利益は、増収により前同比105.1%と増益になりました。

##### ●アウトソーシング

売上高は、海外顧客の店舗休業によるサービス利用料の減少等により、前同比95.6%の減収となりました。営業利益は、前同比102.5%となりました。

# 4.連結損益計算書

(単位：百万円)

## 損益計算書のポイント

### ① 売上原価率 (78.2%)

他社ハードウェア製品およびライセンス販売の増加や一過性の不採算案件などにより増加

### ② 販売費及び一般管理費 (+468百万円)

採用増加などの積極的な先行投資による費用の増加等

### ③ 特別利益 (+2,535) 特別損失 (+1,688)

特別利益は、政策保有株式売却に伴う投資有価証券売却益による増加  
特別損失は、関係会社株式売却損および有形固定資産減損損失による増加

	2020年12月期 2Q累計実績	2021年12月期 2Q累計実績	前同差	前同比	2021年12月期 2Q累計計画	計画比
売上高	122,568	132,508	+9,939	108.1%	123,300	107.5%
売上原価	94,380	103,566	+9,186	109.7%	-	-
売上原価率	77.0%	78.2%	①			
売上総利益	28,188	28,942	+753	102.7%	-	-
売上総利益率	23.0%	21.8%				
販売費及び一般管理費	19,742	20,210	+468	②	-	-
販管費率	16.1%	15.3%				
営業利益	8,446	8,731	+285	103.4%	8,500	102.7%
営業利益率	6.9%	6.6%			6.9%	
営業外収益	309	646	+337	209.0%	-	-
営業外費用	185	66	△ 118	36.0%	-	-
持分法による投資損益	107	150	+43	140.6%	-	-
経常利益	8,677	9,462	+785	109.0%	8,700	108.8%
経常利益率	7.1%	7.1%			7.1%	
特別利益	224	2,759	+2,535	③	-	-
特別損失	1,064	2,753	+1,688	③	-	-
税金等調整前四半期純利益	7,836	9,469	+1,632	120.8%	-	-
法人税等合計	2,760	3,494	+733	126.6%	-	-
四半期純利益	5,076	5,974	+898	117.7%	-	-
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,208	1,321	+113	109.4%	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,868	4,653	+785	120.3%	4,100	113.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益率	3.2%	3.5%			3.3%	

# 5.連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2020年12月期 期末	2021年12月期 2Q期末	前期末差	2020年12月期 2Q期末(参考)
<b>流動資産</b>	105,363	106,413	+ 1,049	97,746
現金及び預金	38,330	40,809	+ 2,479	30,830
受取手形及び売掛金	52,750	51,469	△ 1,281	49,608
有価証券	6,000	5,500	△ 500	7,500
たな卸資産	5,526	4,809	△ 717	6,136
その他	2,756	3,825	+ 1,068	3,670
<b>固定資産</b>	129,173	119,242	△ 9,930	125,181
有形固定資産	89,928	90,384	+ 456	89,787
無形固定資産	4,705	5,030	+ 324	4,485
投資その他の資産	34,539	23,827	△ 10,711 ①	30,909
<b>資産合計</b>	234,537	225,656	△ 8,880	222,928
<b>流動負債</b>	68,751	57,689	△ 11,062	60,516
支払手形及び買掛金	12,519	13,993	+ 1,473	13,094
短期借入金	24,156	11,681	△ 12,475 ②	22,295
未払費用・賞与引当金	10,801	9,813	△ 988	9,665
未払法人税等	3,155	4,441	+ 1,285	2,734
工事損失引当金	319	172	△ 146	177
その他	17,799	17,587	△ 211	12,549
<b>固定負債</b>	30,623	29,062	△ 1,560	32,246
長期借入金	20,515	20,163	△ 352	22,272
その他	10,107	8,899	△ 1,207	9,973
<b>負債合計</b>	99,374	86,752	△ 12,622	92,762
<b>純資産合計</b>	135,163	138,904	+ 3,741	130,166
<b>負債純資産合計</b>	234,537	225,656	△ 8,880	222,928

## 貸借対照表のポイント

### ① 投資その他の資産 (△10,711百万円)

政策保有株式売却による投資有価証券の減少

### ② 短期借入金 (△12,475百万円)

コロナ禍での運転資金確保を目的とした短期借入金の返済

## 6.連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2020年12月期 2Q累計実績	2021年12月期 2Q累計実績	前同差
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,235	9,589	+4,354
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,032	8,269	+18,301
財務活動によるキャッシュ・フロー	13,733	△ 13,755	△ 27,489
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 15	348	
現金及び現金同等物の増減額	8,921	4,452	
現金及び現金同等物の期首残高	26,158	37,450	
現金及び現金同等物の四半期末残高	35,079	41,902	

### キャッシュ・フローのポイント

#### ●営業活動によるキャッシュ・フロー

当期は増収・増益に伴う入金増加により、9,589百万円の収入となりました。

なお、前年にライセンス調達の支出があったことにより、前同差は4,354百万円の増加となりました。

#### ●投資活動によるキャッシュ・フロー

当期は投資有価証券および関係会社株式売却により、8,269百万円の収入となりました。

なお、前期はオフィススペース確保のための建設費用支出があったことにより、前同差は18,301百万円の増加となりました。

#### ●財務活動によるキャッシュ・フロー

当期は短期借入金の返済などにより、13,755百万円の支出となりました。

なお、前期に運転資金等に関する借入があったことにより、前同差は27,489百万円の減少となりました。

## 7.連結S I事業の受注高・受注残高

(単位：百万円)

	2021年12月期		2Q累計実績		2021年12月期		2Q累計実績	
	期首受注残高	前同比	受注高	前同比	売上高	前同比	期末受注残高	前同比
SI事業 合計	60,265	110.1%	124,381	104.0%	126,612	109.2%	58,034	99.4%
システム構築	35,768	102.5%	75,083	112.0%	70,777	105.4%	40,075	115.2%
組込系／制御系ソフトウェア	14,075	99.6%	33,203	100.1%	33,165	100.3%	14,113	99.2%
業務系ソフトウェア	21,693	104.5%	41,879	123.7%	37,611	110.4%	25,961	126.3%
プロダクト・サービス	24,496	123.6%	49,298	93.7%	55,835	114.4%	17,959	76.0%
プロダクト・サービス	22,412	130.8%	42,428	92.4%	49,026	117.6%	15,813	74.1%
アウトソーシング	2,084	77.7%	6,870	102.4%	6,808	95.6%	2,145	94.6%

### 受注高・受注残高のポイント

#### ●システム構築分野のポイント

- ・組込系/制御系ソフトウェア  
受注は、社会インフラ系が増加したものの、機械制御系および自動車分野が回復途上であり、前同比100.1%となりました。また期末の受注残高は前同比99.2%となりました。
- ・業務系ソフトウェア  
受注は、流通・サービスおよび金融業や官公庁向け案件が好調に推移したことにより、前同比123.7%となりました。  
また、期末受注残高は、前同比126.3%となりました。

#### ●プロダクト・サービス分野のポイント

- ・プロダクト・サービス  
受注は、前年に大型の他社ライセンスおよびハードウェア販売案件があったことにより、前同比92.4%となりました。  
また、期末受注残高は前同比74.1%となりました。
- ・アウトソーシング  
受注は、流通業向けサービスおよび運用保守案件の増加により、前同比102.4%となりました。  
また、期末受注残高は前同比94.6%となりました。



## 8. 配当について

中間配当金を26円/株、期末配当金予想を26円/株へ

- 中間配当予想を25円/株としておりましたが、業績を総合的に勘案し、26円/株といたします。
- 併せて、期末配当予想を25円/株としておりましたが、26円/株に修正いたします。

### ■ 中間配当

(単位:円)

	2021年12月期 第2四半期末	直近の 配当予想	前期実績※
1株当たり配当金	26.00円	25.00円	28.00円

※創立50周年記念配当5円含む

### ■ 期末配当予想

(単位:円)

	2021年12月期 期末	直近の 配当予想	前期実績
1株当たり配当金	26.00円	25.00円	23.00円



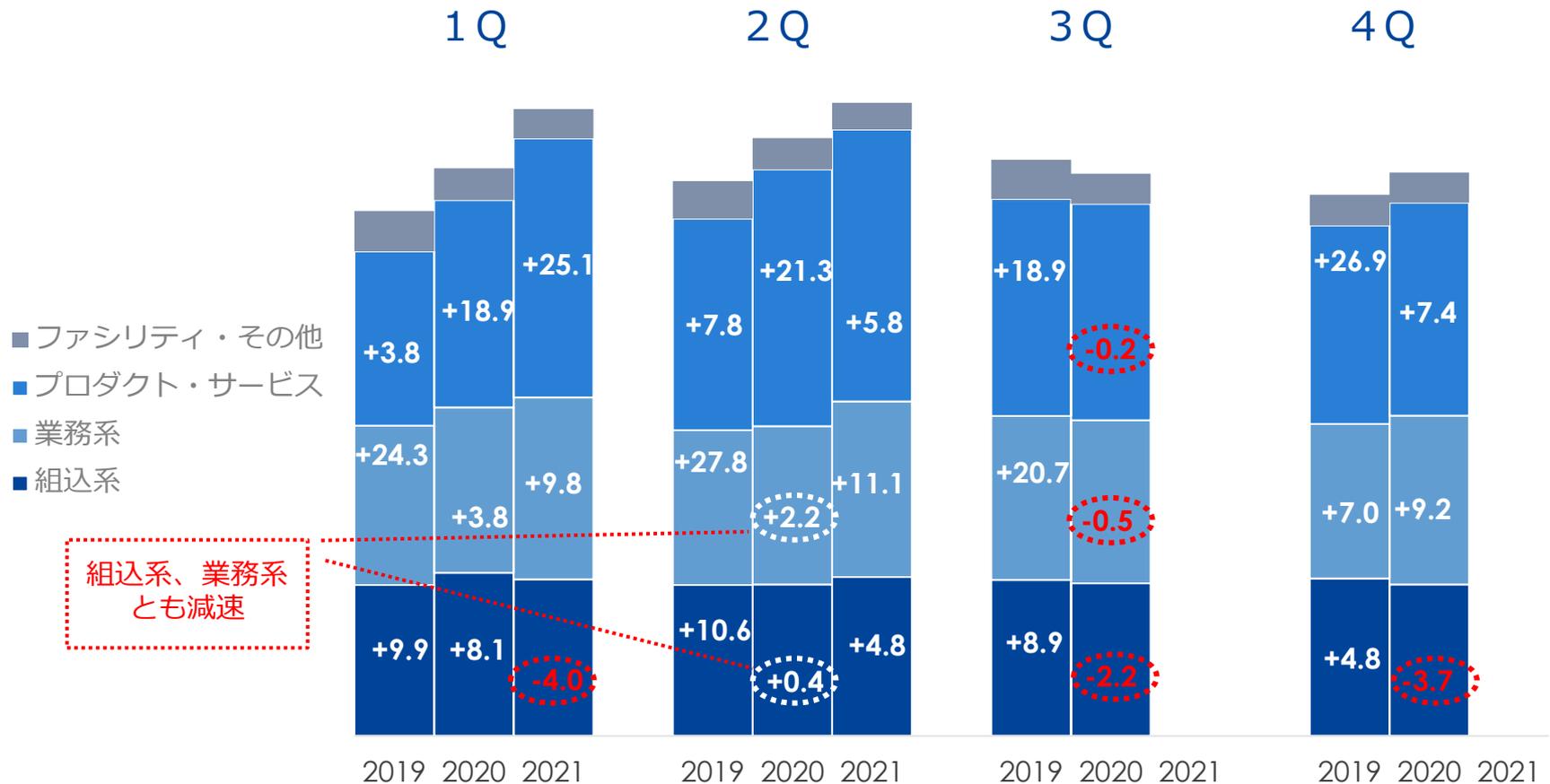
# 上期業況

---

# 四半期別業績推移 (2019年~2021年2Q)

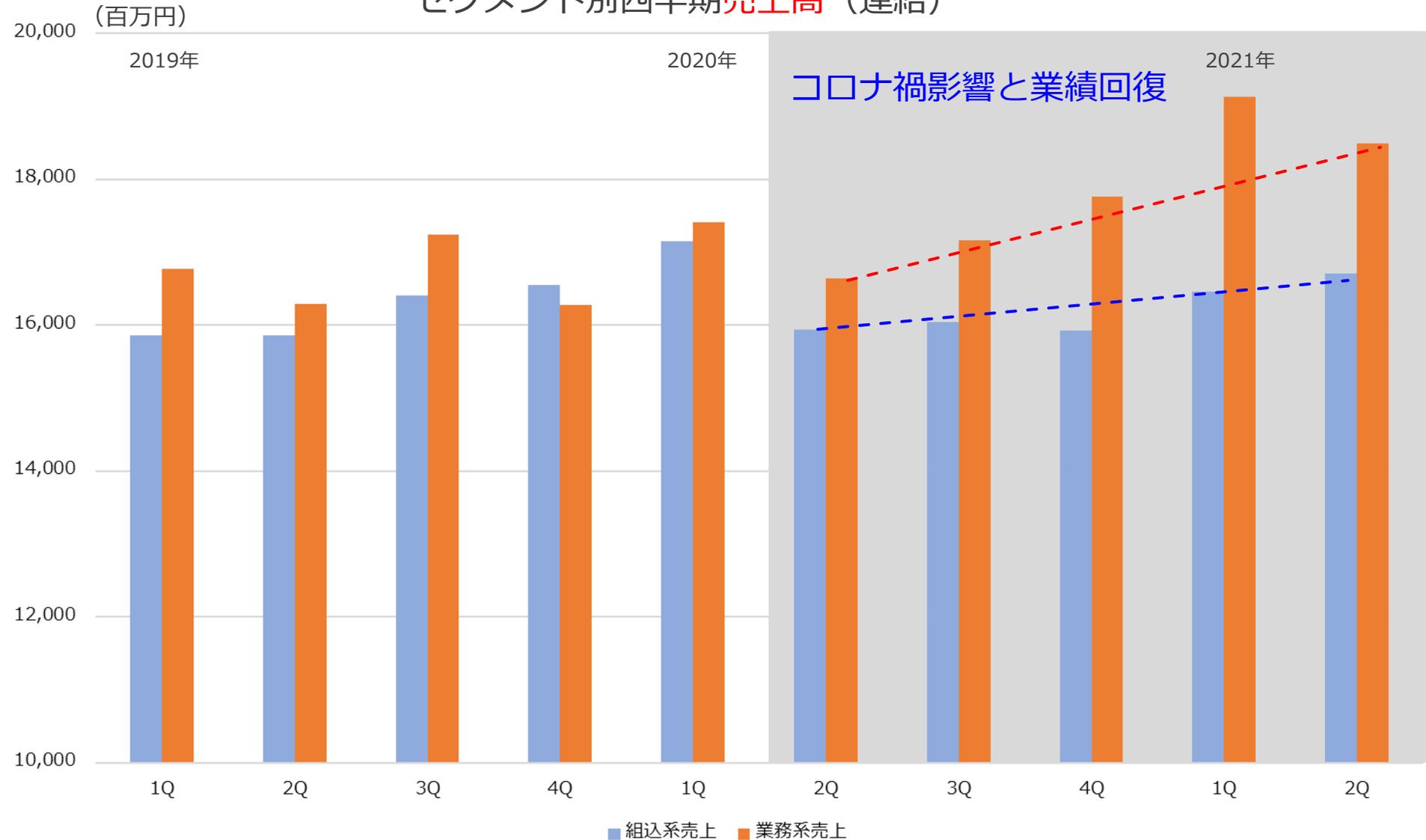
セグメント別四半期売上高 (連結)

数値：前年同期増減率 (%)



# 四半期別業績推移（2019年～2021年2Q）

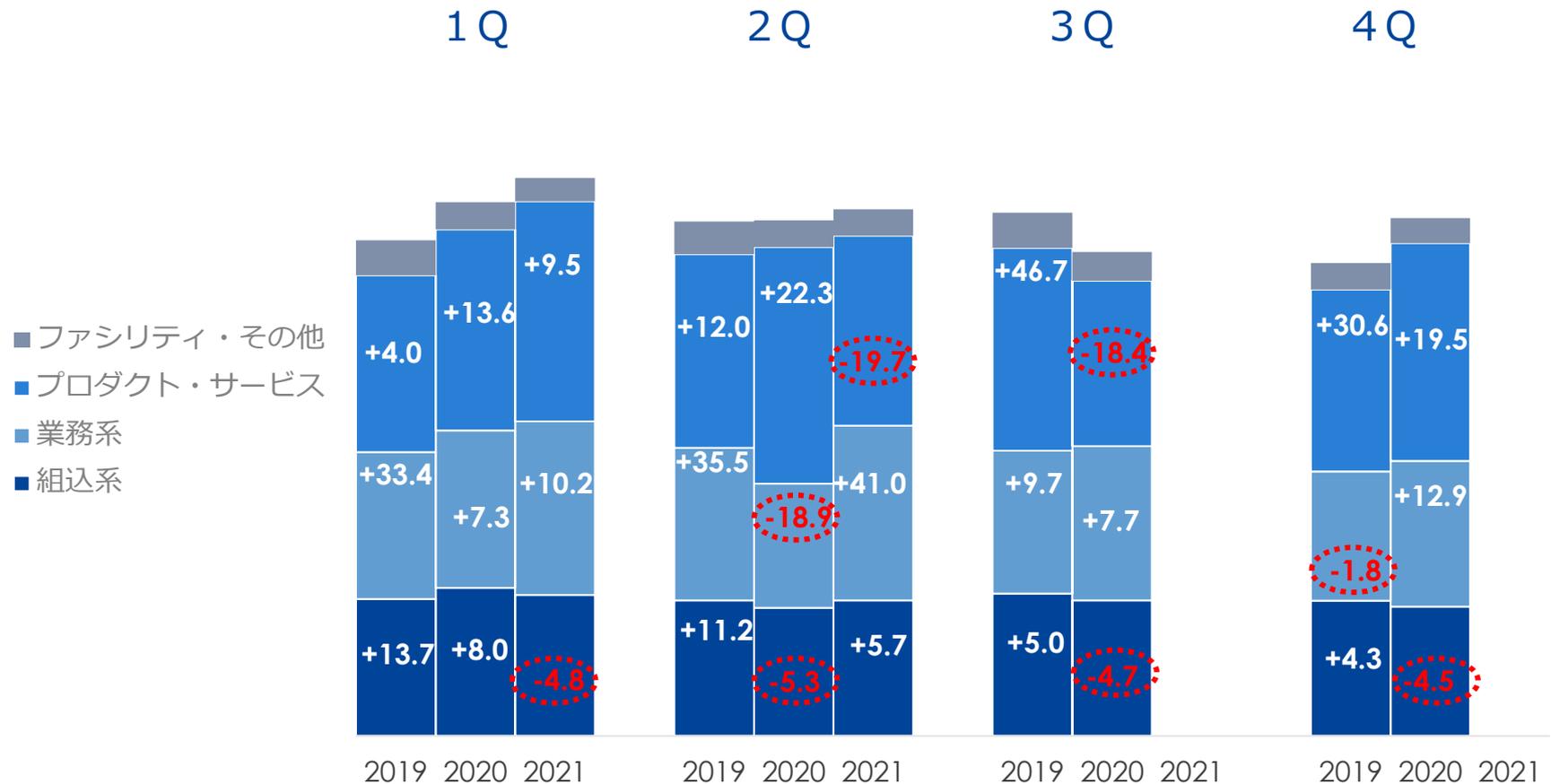
## セグメント別四半期売上高（連結）



# 四半期別業績推移 (2019年～2021年2Q)

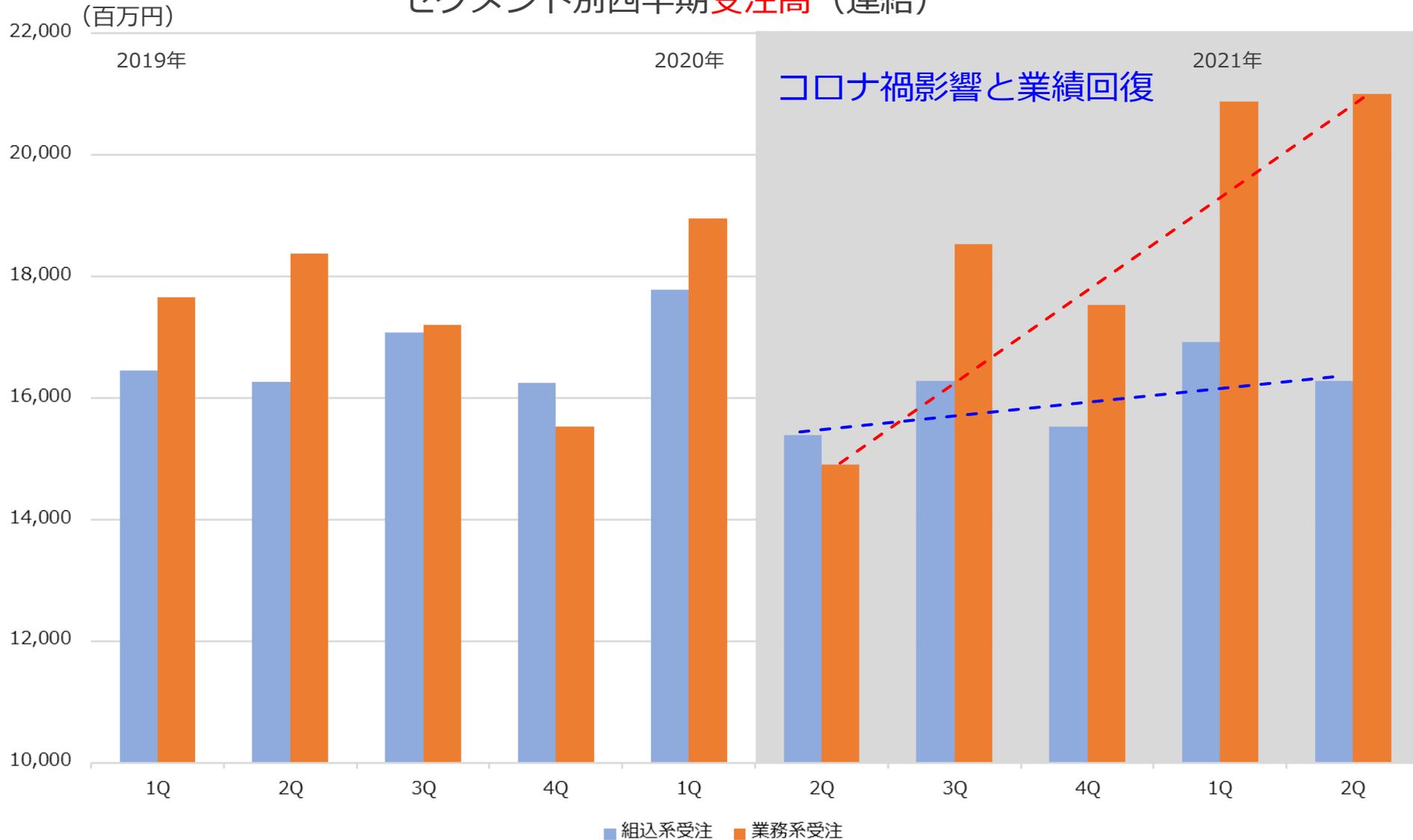
セグメント別四半期受注高 (連結)

数値：前年同期増減率 (%)



# 四半期別業績推移（2019年～2021年2Q）

セグメント別四半期受注高（連結）





# 2021年度上期の取り組み

## 経営のポイント

新技術への果敢な取り組み  
「AIS-CRM」

付加価値の高いシステム  
インテグレーション事業の推進

人材強化と受託開発事業の  
確実な成長

プロダクト事業の積極推進

グループ全体での成長と  
積極的なグローバル展開

## 2021年度上期の取り組み

AIS-CRM含むDX関連テーマへの新たな  
拡大施策展開（セミナーの開催等）  
プロジェクトの大型化・高度化提案の強化、  
新たな開発手法を伴うテーマ（アジャイル  
開発、マイクロサービス化、コンテナ適用  
等）への積極対応  
トラブル抑制策の追加・強化

コロナ禍  
影響と  
対策

↓

新常態  
に向けた  
最適化

システム開発作業や採用・育成活動などを  
テレワーク下での最適化

新たなコミュニケーション分野などにおけ  
るマーケット変化の対応を加速

コロナ禍での積極施策により多くのグルー  
プ会社が増益を確保

# 2021年度上期の業況

## 2020年度～21年度上期の 当社事業分野の相対的な業況

		マーケットへの影響 コロナ禍が与えた	従来分野	AI	IOT	Security	Cloud ・仮想化	Robot	Mobile
<b>組込・制御系分野</b>									
機械製造業	: 回復傾向	↓	○		→	→		○	
自動車分野	: 回復の兆し	↓	○	→	→	→			
社会インフラ系	: 好調持続	→	→		→				
<b>業務系分野</b>									
金融関連ビジネス	: 回復傾向	↓	→	→		→	→		
流通・サービス業	: 堅調	↓	→	→	→		→		
製造業	: 堅調	↓	→	→	→		↑		
システムインフラ関連	: 活況	↓	↑			→	↑		
ネットビジネス関連	: 活況	↓	↑	→		→	↑		
官公庁系	: 堅調	→	→			→			
<b>プロダクト・サービス分野</b>									
クラウド関連商材	: 活況	↑			→	→	↑		
マイクロソフト製品	: 活況	↑	↑			→	→		
自社商材	: 好調	↑	○		→			→	○
アウトソーシング	: 抑制	↓	↓						

# クラウド・仮想化分野

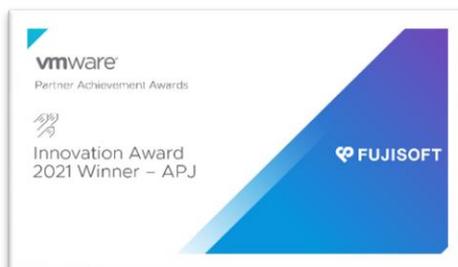
DXを視野に入れたシステムインフラ見直しニーズにより高成長が継続

- ◇テレワークにおける業務継続や生産性向上、セキュリティ強化など導入目的の多様化によりVMwareおよびAWS関連事業の二桁成長が継続
- ◇技術力の蓄積およびアライアンス強化に取り組み、各ベンダーより最上位の表彰受賞

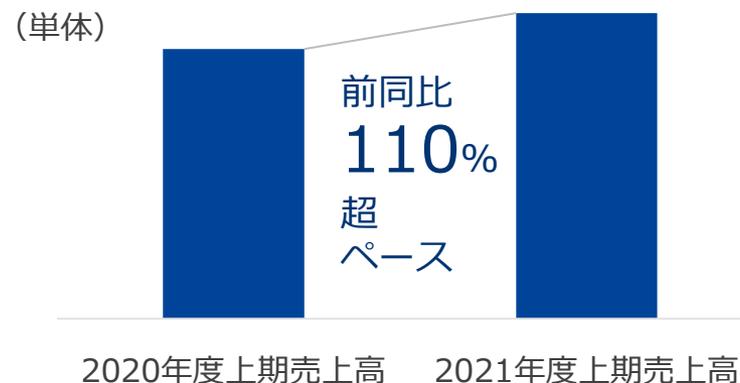
## VMware



- ・パンデミック期間中および将来に向けて、企業の俊敏性と適応性を高めるシステム構築実績が評価され、2021 VMware APJ Partner Innovation Awardを受賞



## AWS



- ・AWSの卓越した技術力と継続的な情報発信が評価され、当社の技術者が

APN Ambassadors  
APN AWS Top Engineers

に選出



# 車載ソフトウェア (Automotive)

EV関連を中心に回復へ、モビリティサービス等成長分野への取り組み強化

- コロナ禍影響は解消、半導体供給不足による開発投資抑制も限定的
- EV関連、モビリティサービス関連は拡大へ

## 四半期受注高 前年同期比 (連結)



## 【当期取り組み状況】

### 成長期待分野

- EV関連：引合拡大を睨み受注活動を強化
- 開発作業のデジタル化：MBD、シミュレーション、AIなどの技術を組織的に共有

### 底堅い投資需要が見込まれる分野

- ネットワーク化：クラウドを含む通信・情報処理技術に関する研究、提案力強化
- サイバーセキュリティ：規制強化を踏まえた開発プロセスの整備

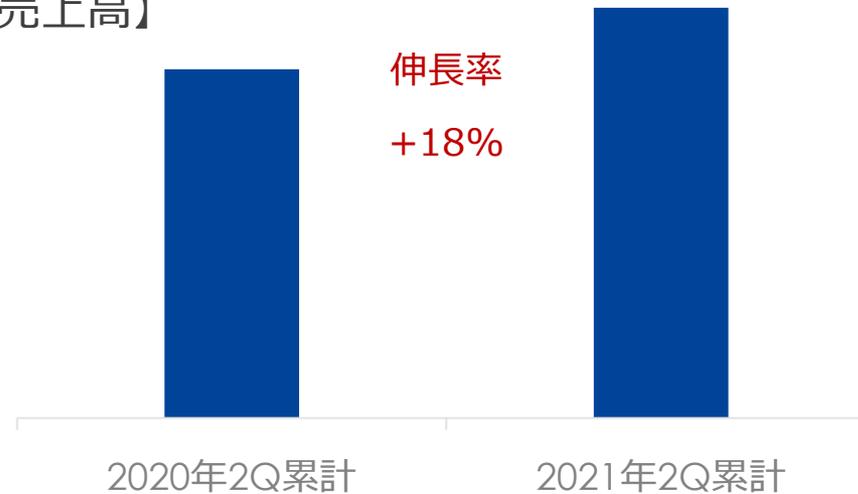
### 上流工程へのシフト

- 制御工学などハードウェアに関する知見獲得により上流工程での対応力を強化



# プロダクト・サービス分野の状況（売上高）

【プロダクト・サービス売上高】



## プロダクト・サービス内訳

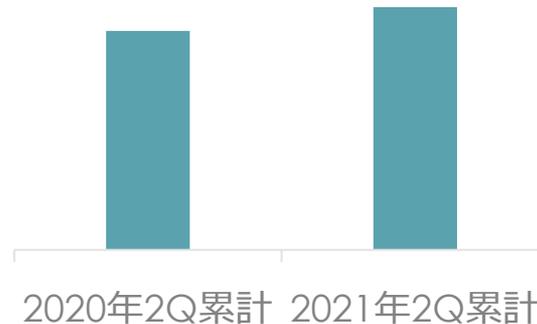
【自社プロダクト売上高】

△1%



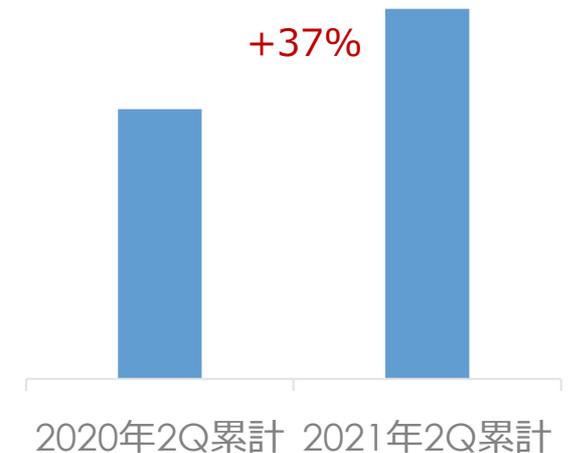
【ライセンスビジネス売上高】

+11%



【物販等】

+37%



# プロダクト・サービス分野の取り組み

## マイクロソフトとの協業によるテレワーク・DX支援サービス

- テレワークの普及にあわせて需要が拡大したMicrosoft Teamsビジネスへの貢献が評価され、「マイクロソフト ジャパン パートナー オブ ザ イヤー 2021」において「Microsoft Teamsアワード」を受賞（2021年7月）
- 当社独自のアウトソーシングサービスとしてテレワークにおけるPC管理作業の効率化を支援する「デスクトップフルサービス」を提供開始、ハードウェア選定からセキュリティ、資産管理、運用保守など、PCライフサイクル管理に関する作業をワンストップで対応し、更にMicrosoft365活用により業務効率化とDX推進を支援（2021年8月）



## コミュニケーション活性化ノウハウ・ツールの外部提供

- テレワーク環境でのコミュニケーションロスによる生産性低下や孤独感による社員のストレス等への対策として一体感の醸成を促進するツールを独自に開発
- 社内利用や一部のお客様による先行利用を通じてノウハウを蓄積、さらにサービスデザイン手法を取り入れ製品化し「FAMoffice」として外部提供を開始
- バーチャル空間上に再現したオフィスにアバターとして出社するだけで、メンバーの状況を俯瞰し、気軽なコミュニケーションをとりやすい環境と仕組みを提供（2021年6月）





※ 本資料に掲載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて合理的と判断したものです。実際の業績は市場動向、経済情勢など様々な要因の変化により大きく異なる可能性があります。

また、資料配布の目的が、当社株式の保有継続および追加購入を推奨するものではないことも、併せてご理解いただきますようお願い申し上げます。